

## 6 その他 令和4年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」【意見交換】

～ ライフステージに応じた切れ目ない相談支援の実現に向けて ～

- 進行役：NPO法人リンケージ理事長 石川京子氏（前列左端）
- 助言者：みどりクリニック院長 鈴木基司氏（同2人目）  
県障害政策課主任 岡直矢氏（同3人目）
- 報告：「玉村町における健康福祉分野と学校教育との連携」  
玉村町健康福祉課 畑中哲哉氏（前列右端）ほか5名（後列）



### ■ 登壇者（左写真：左端から順に）

前橋市子育て支援課こども健診係 望月恵氏  
児童発達支援センター「つくし園」 秋松宗雄氏  
特別支援教育専門アドバイザー 武井絵里子氏  
県中央児童相談所発達支援係 吉田喜美子氏

## <健康福祉と学校教育との連携>

石川 玉村町から取組の報告をしていただきます。

畑中 大人のひきこもりの相談を受けていると発達障害に起因する「生きづらさ」のある方が多いと感じます。若年期に適切な支援に繋がっていなかったのかなという場合があります。

幼少・義務教育から支援をつなげていけないかなと、【にじいろファイル】の活用、見直しを部局を超えて話し合っています。

町保健師 発達特性を持つ子どもや家族への支援を目指して、各ライフステージの情報をつなぐツールとして、支援の経過や生育歴、プロフィールなどを一冊にまとめてあり、保護者が記入・保管し、支援者が相談の記録などを書き入れたり、記入に困っている方には一緒に作成したりします。

畑中 情報が幼・保育園から小・中学校につながっていけば、お母さんはステージが変わるたびに同じことを説明する必要がないのですが、上手く使い切れていないので改めて活用しようと話しています。

義務教育が終わると「不登校」でなく、「ひきこもり」ケースとなって社会福祉係の方に流れてきます。保健センターで健診記録を書いても学校のステージになると情報が入って来なくなります。子ども育成課での情報も親御さんへの支援が継続していかないと単なる紙資料になってしまいます。

学校の先生も親御さんとの良好の関係を考えると発達障害の問題になかなか踏み込めないでいます。

## 連携でどんな情報を共有したらよいか

石川 関係機関の連携でどんな情報を共有していったらいいのか、それぞれの立場で話してください。

望月 部局が違うと持っている情報も異なります。保護者によってはこの人には話すけど、あの人には話さないということがあります。今後のお子さんの成長を支援していく為に、他の支援者とどこまで情報を共有していいか教えていただけますかと、了解を取ることも多いです。

**秋松** 子どもにとっては幼稚園、保育園は最初に参加する広い社会になります。家でお母さんと過ごしているときは良好な反応を示しているのかもしれませんが、園で要求されることが本人のキャパを超えてしまうと、適応、対応できずにちょっとずれた行動に出てくるのかなと思います。

そのことが保護者に上手く伝わらないと子どもが正しい行動ができないと思って、極端な話、手が出てしまうかもしれません。その子は「じゃ嫌だ、(園には)行かないよ」ということになってしまうかもしれません。

保護者からの申告情報も大事ですが、幼・保育園、子ども園での情報をどこまで拾っていくのか、保健センターの方へ情報が反映されている市町村もありますが、情報の共有が大事なかなと思います。

**武井** 「にじいろファイル」は保護者が管理するようですが、どんな情報を載せていますか。

**保健師** 支援者にこういう情報を出した方がいいのではと助言したり、発達特性の場合は就学に向けて担任に渡らせる情報を書いたりします。

ですからマル秘情報は書き入れにくい状況になっています。

**武井** 例えば小学校から登校渋りの相談があった場合、先生との話の中で、幼・保育園ではどうだったのだろうか、という話題も出ます。就学前からあったとすれば本人の特性が関係しているのかもしれませんが、入学後であれば学習面での困難さなども一因なのかもしれません。

また、ある小学校の先生は入学時、保護者からこんな相談を受けたそうです。それは「うちの子は一斉指示が通りにくいので、クラス全体に話したあと、個別に再度伝えてほしい。」という内容でした。それを受けて、その先生はそのお子さんの座席を前にし、わかりやすく伝える方法を考えることができたと言います。

保護者と学校が連携したことで、お子さんのわかりやすさにつながったようです。

**吉田** 情報の共有という点では、立場上、アセスメントをすることが多いので、母子手帳とかいろいろお母さんに見せていただくのですが、子どもの頃のちょっとしたエピソード、迷子になって大変だったとか、最初の言葉が「アンパンマン」だったとか、そうした具体的なエピソードが書かれている母子手帳であったり、情報ファイル的なものがあると、子どもさんの育ちを把握するのに役立ったりします。

また、他機関からつながれてくる場合、親御さんがどこまでお子さんの特性を理解されているのか、それに対してどう受容的であるのかとか、なかなか難しい気持ちなのかとか、そういうところも繋げていただけると、すごくお話をする時に助かるかなと思います。

相談の場で実際、にじいろファイルを持って来られた親御さんに会ったことがあります。お母さんからファイルを見せていただいた時、乳幼児期から、多分保健センターでこれ挟んでおいたらいいと言われたものが全部挟まれていて、学校の支援計画、過去に児童相談所で検査を受けた時の記録、全部そこに綴られていたので、相談が進めやすくなったことを覚えています。

## 個別支援ファイルを活用するには

**岡** 県では毎年、厚労省より依頼があり、全市町村に「個別支援ファイル」の使用状況等に関して調査しています。現在12市町村が利用し、上手く利用している市町村では支援者が一緒に書いてくれています。ハッキリ書きづらい情報は、良い部分を書きながら、さらっと書くといいかもしれません。

**町教委** 担任の思いとして「こうなって欲しい、こんな風に成長して欲しい」と書くことが多いです。

**岡** 相談を受けるとき、通知表から先生が書いた言葉の背景を読み取るように意識していました。発達特性の問題をストレートに書くのではなく、表現を工夫して情報を記入できたらいいと思います。

**鈴木** 医療的に見て重い場合は周囲が共通認識を持って連携し易い面もあります。

親御さんも困っているし園でも困っているので「どうしようか」と話が成立し易いわけです。個々の特性や行動が重いレベルではないとか、得意な面や不得意な面がある場合は、かえって対応が難しいことが少なくありません。親御さんも何でもないと思いがちですし、難しそうな話は聞きたくない気持ちもあります。問題情報を共有し難いことがあるかなと思います。

軽度や微妙であればあるほど、問題を提起するにあたり慎重さが必要で、そこを踏まえて話を聞いていく人が必要だと感じています。悩ましいのは周囲の方々に特性という視点がない場合です。躰や本人のやる気の問題、そこが悪いからという見方をされますので本人の持っている特性と折り合えず衝突する事態になりかねない。特に家族内では感情が絡んだ対応、怒りが繰り返され易い、そうした事態が虐待等の要因の一つに関係していくのかなと思っています。

## <ライフステージに応じた切れ目ない支援の実現>

**石川** 学齢期、青年期、それぞれ子どもたち、若者たちは生きづらさを感じる場合があります。

ライフステージに応じた切れ目ない相談支援の実現に向けての課題、取組について発言してください。

**望月** やはり切れ目ないということで横に横にといろいろな所で協力し合う、つなげていくことをしています。保護者があちこちで同じ話を繰り返すというのは、やはり一番の苦痛になると思うので、保護者の了解を得ながら、ここまでは話をするねと、横に横にとつなげています。

**秋松** 保護者と実際の生活をベースにどういう風に細かい部分を共有していくか課題があります。重度の子どもさんは認識されていますが、軽度となると期待というところもたくさんからんでくるので、理解していただくのが難しいなと思っています。

幼・保育園を訪問して感じるのはやはり数の多さですね。一クラスに3人、4人と気になるお子さんがいて、先生たちももうアップアップ、てんてこ舞いでいます。誰と一緒に子どもさんのことを考えてくれるのか、園は勿論、担任をバックアップしていますが、専門家とか、通所機関とかにつながりが持たなくて困っている先生がたくさんいるので、そうした声を拾っていききたいなと思っています。

**武井** 教育の面で考えると、個別の教育支援計画が有効だと思います。これを見ることで、園や療育などの学びの場でどんな支援を受けてきたのかがすぐにわかります。

さらに病歴やかかりつけ医についても書いてあるので、相談先がすぐに見つかります。にじいろファイルの中にも同じようなものがきっとあると思います。

**吉田** 何を伝えていくのか、何を次の機関と共有していくかということかなと思います。

小学校に上がるので担任に何を伝えたらいいでしょうかという相談を受けます。ここがポイントだよね、これは絶対伝えたいね、幼稚園で役立った情報を見てもらえるといいよねと、伝えられたらいいなと思っています。

もう一つは、お母さんたちは将来の見通しのなところが不安になるということを知ります。お子さんはこういう順序で機関に繋がって、今の状態でいくとこういう時期にこういう機関につながっていくといいよねといった話も時々織り交ぜながら話しています。

**岡** 丁寧に支援できたケースを担当してもらえるといいなと思います。具体的なイメージが湧きやすくなるので、複数の他機関と支援することで安定したケースを是非体験していただきたいと思います。

**鈴木** 個々の特性は軽度、あるいは微妙であっても、相談された時には重く、ひきこもり状態になっていることがあります。

時間をかけて第三者(例えば心理系の人)や医療(薬剤調整)とも何とか繋がったりすることで緩和していく人もいます。この子ここまで話せるのだ、当初はほとんど緘黙の状態で顔に髪の毛がかかっていたりだったのが、意外と変化していくのですね。

ぜひ、一対一な対応をできるだけ保障しながらその子を育てる、社会生活集団の中で辛く不安なときには、そこで生じた体験や感情を話せるというか、聞き出してくれる人がいることを保障していく態勢作りが大事だと思います。

## <まとめ「当事者を真ん中に、大人がチームになって支え、支え合う」>

**石川** 御家族は何故、我が子のことを他の人に知られたくないのだろうか、家族の間では特に問題がないのかもしれませんが。でも何か気になることがあると「障害」という言葉が出て回ることがあります。障害、特性、よく分からなければレッテルを貼られるのではないかと、何か不利益を受けるのではないかと、もしかしたらそんな不安を抱えている御家族もいるのかもしれませんが。

特性があってもなくても、多くの子どもたちが自分が今、難しいなと思っていることを大人に上手に伝えられません。あの時、どんな風に向き合ったらいいのかということを目にしている保健師や心理士、福祉サービスの方や学校の先生に教わって、この子はこういう子なんだということが毎日の生活の中で分かっていたはずで。

おそらく連携が必要だというのは、具体的にどう向き合ったらいいのかわからないでいる大人がたくさんいるからなんだと思うんです。

だから親御さんが子どもとの向き合い方が分かって、安心して豊かに暮らしていけるように、この子のことを分かってもらって、この子が安心して生きていける為の連携だ、その為に子どもを真ん中にして大人たちがチームになって支え支え合っていくといいよね、そんな風に思っていたら、また違った世界が見えてくるなあと思いました。

「連携」という言葉を使うと、支援者側からのどう連携するかという話について思いを描きがちです。でも、抜かしていけないのは、連携の中に本人と御家族がチームにいるということです。そのことを最後に皆さんと共有して終わりにしたいと思います。

【県ホームページ(児童福祉・青少年課)】

令和4年度「県・市町村青少年相談担当職員研修会」の開催結果  
(意見交換の概要含む) (<https://www.pref.gunma.jp/page/180649.html>)



## 玉村町の【にじいろファイル】

### 玉村町の相談支援ファイル

# 「にじいろファイル」

がはじまります

ご本人やご家族をみんなで支えるファイルです

◆ 主として発達障がいになり、日常生活に困りごとや悩みを抱えるご本人やその保護者の方にお勧めします。



◆ ご本人やご家族、その支援者（サポートする人）が一緒に作るオリジナルファイルで、隔歳からでも使えます。

◆ ご本人やご家族の思いを支援者に伝えたり、サポートを受けたりするときにご利用いただけます。

◆ お子さんの成長や子育てなどに不安のある保護者の方にも、お使いいただけます。

「にじいろファイル」を使って  
みんながかかわり、みんながつながりましょう

活用していただくには、現在支援を受けているお子さんの学校での相談支援コーディネーター、保護者の保護者、保健センター、玉村町立保健センター、玉村町障がい者（児）福祉相談支援センターにご相談ください。

【相談支援ファイル「にじいろファイル」についてのお問い合わせ先】  
玉村町保健センター 相談ファイル担当係 TEL. 0270-64-7706  
玉村町教育委員会 学校教育課 相談ファイル担当係 TEL. 0270-64-7713

平成21年度にA4サイズのファイル（紙ベース）を策定しました。お子さんの成長の様子や、さまざまな機関で受けた支援の内容などを一冊にまとめていき、お子さんに関わる人たちが連携し、継続して支援をしていくために役立てていきます。



ファイルの様式は、町HPからダウンロードできます

⇒ <https://www.town.tamura.lg.jp/docs/2015021300068/>

・にじいろファイルは、保護者かご本人が保管します。原則、保護者の方やご本人に記入していただきますが、支援者と一緒にも書くこともできます。ご本人の状況に応じて、伝えたいと思う箇所に記入してみてください。

- ・お子さんの成長のステージごとに、ご家族の思いを学校や支援者に伝えたり、サポートを受けたりする時の情報提供ツールとして役立ててください。お子さんの成長や子育てに不安のある保護者の方も、ぜひ使ってみてください。
- ・進学相談や就職相談の時などに、その都度、最初から今までの様子を話すのではなく、このファイルに関係者に見ていただきましょう。

## 「にじいろファイル」の活用

成長の様子やさまざまな機関（教育・医療・保健・福祉等）での相談や支援の内容を一冊にまとめ、情報共有や継続した支援につなげる



いろいろな人とつながって、成長過程で一貫したサポート

子どもに関わる大人が、特性に応じて一貫した指導・支援を行うことは、子どもの持てる力を最大限に高めると言われています。お子さんが安心して次のステップに進めるように、にじいろファイルを活用して、支援者に伝えてみませんか。

＜相談窓口：玉村町役場 学校教育課または玉村町保健センター＞